

QOL

No.29

QOL サポーター 新潟

Quality Of Life



7月、8月、9月に「オープンキャンパス2012」が開催されました。県内外から約3,800名の方々にご来場いただき、大変賑やかなイベントとなりました。

INDEX

■ 対談企画

■ 暮らしサイエンス

・健康科学部 健康スポーツ学科 地域に根ざした取り組み

■ 院生研究紹介

- ・咀嚼・嚥下障害を有する血液透析患者の栄養療法に関する研究
- ・運動イメージ能力と鏡像手凝視による皮質脊髄路細胞の興奮性との関連の解明

■ 国際交流のWA!

ブルリリンガル・ランチ 留学生インタビュー

■ 基礎ゼミ 学生・教員交流会

理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科
義肢装具自立支援学科/臨床技術学科/健康栄養学科
健康スポーツ学科/看護学科/社会福祉学科/医療情報管理学科

■ 部活動「強化クラブ」

男子サッカー部/女子サッカー部/男子バスケットボール部
女子バスケットボール部/水泳部/陸上競技部

■ CAMPUS NEWS

- 第12回伍桃祭(大学祭)のご案内
- 大学院 各種イベントのご案内



新潟医療福祉大学

2012年9月10日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



本学における ボランティア活動、 地域貢献活動

左から、義肢装具自立支援学科3年 今井 歩さん、社会福祉学科4年 佐藤 智里さん、丸田副学長(地域連携担当)、看護学科4年 伊勢 里歩さん、社会福祉学科4年 長谷 一輝さん

学び、成長できることがたくさん “してあげている”というより、“させていただいている”

丸田 本学におけるボランティア活動や地域貢献活動等に取り組んでいる学生は、約半数の1200~1300人に上っているようです。

伊勢 私たちのレクア.コム部では、部員数が多くて、現在213人もいます。ひとつの活動は20人位のグループで行っているのですが、近隣の小学校や養護学校のお子さん、高齢者施設のお年寄りの方々と、一緒に遊ぶレクリエーションを企画して、交流を深めています。

長谷 私は東日本大震災で豊栄近辺に避難されていた南相馬市の皆さんへボランティアを行ったりしますが、実はボランティアを積極的に始めたのは、3年生になってからなんです。せっかく福祉の勉強をしているんだから、経験を積んだ方がいいと学外実習を機に感じたのがきっかけでした。最後の学生生活なので、好きなことしたいですね。

ボランティアをしていると1日ごとにニーズや課題がでてくる。それを達成する為に、いろいろな情報を収集したり、経験を基に解決していく、その繰り返しを楽しんで、成長を感じます。

佐藤 活動の中から私たちは学びを得ることがたくさんあって、“してあげている”というより、“させていただいている”っていう気持ちになるよね。私はゼミで水俣病について取り組んでいて、熊本県水俣市で行われたフィールドワークに参加してきました。

今井 僕の場合は、中古の車いすを回収・修理・整備して、発展途上国へ届ける国際ボランティア活動を行っています。タイやスリランカに行って、僕たちが修理した車いすを手にして、現地の方々が涙を見せて喜んでくれた時などは、すごくやりがいを感じる一方、技術者としての責任も感じます。

モチベーションを高め、 QOLサポートとしての資質を形成

伊勢 私、幅広い年代の方を対象とするので、他者を理解することの大切さを感じました。また、「自己成長・自己実現」という部の目標に向かって、部員全員の意識を高めていくためにリーダーシップをとっていくこと、達成するために協働するということが、将来「チーム医療」の中で、看護師としてどう動いたらいいかというところに活かせるかなと感じています。

佐藤 私は、人の気持ちに寄り添える、共有できる、社会福祉士になりたいと思う。水俣市に行った時に、患者さんが過去の辛さを涙ながらに語ってくださって、悲しみを共有できたり、それと同時に未来に向かって歩いていく患者さんの強さや、希望を見いだせたり、そういう時に感じる自分の感受性を大切にしたいと思いました。

丸田 そうですね、それぞれの専門職に求められる基本的資質そのものであると思います。ボランティア活動や地域貢献活動等を通して様々な気づきや体験の理解は、みなさんの学習に対するモチベーションを高めているようです。

今井 そうなんです。例えば、車いすが整備不良で1週間で壊れてしまったりしたら、困るのは、整備をした僕ではなくて対象者さんになってしまう。授業をより一層真剣にうけるようになりました。

長谷 正直、僕は、机上での勉強はあまり得意ではなくて…。だったら勉強したことを活かせるように現場に行き、学校で勉強したことがどれだけ通用するかを確認し、できなかったことは授業で学んでいきたいですね。でも何より、「笑顔」を共有できることが自分にとっての大きなやりがいであり、生きがいだと実感します。

丸田 ボランティア活動を通して、対象者の方の「笑顔」や「喜び」が自分自身のエンパワメント(意欲を高め、主体的に取り組む力)につながることを実感できていることは、自らが主体的にQOLサポーターとしての資質を形成していることにはほかならないと思います。

更に参加しやすい「キッカケづくり」「目標づくり」 新たな仕組みの構築に取り組みたい

丸田 ちなみに、本学は、ボランティア活動や地域貢献活動等を単位や成績に還元するシステムをとっていないことが大きな特徴ですが、どう思いますか？

伊勢 考えたこともなかったかな。ボランティアをしていると普通の学校生活では出会えない人たちに出会えたり、改めて気づくことがすごく大きい、単位とかそういうものではないですね。

佐藤 ただ、ボランティアを一生懸命やっている学生もいれば、こういった活動を知らなかったり、参加するには敷居が高いと思っている人も意外と多いんです。こういった活動をもっと多くの学生に知ってもらう機会を作ってもらったら、関心持ってもらえるのかな。

丸田 キッカケがなくて参加しにくいという学生に対して、実際の活動に踏み出すことのできる「キッカケづくり」や「目標づくり」を整えていけたらいいですね。

今後は、学友会や学生委員会等と相談しながら、学生に向けたボランティア活動等の情報発信と、参加しやすい新たな仕組みの構築に取り組んでいきたいと思っています。





スポーツ教室

スポーツ活動を通して、地域の子どもたちの「生きる力」の育成および、本学学生の「実践力」の育成を目的に、スポーツ教室を開催しています。また、文武両道をモットーに、スポーツ教室の後には、学生による子どもたちへの学習指導も行っています。

【陸上教室】

小学校4～6年生を対象に、毎週土曜日に開催し、ラダーやミニハードルを使った動きづくり、体力向上を目的としたゲーム、50mのタイム測定などの運動を行っています。



50mのタイム測定などの運動を行っています。学生たちは、自ら作成したプログラムを使って、子供たちに走る技術や楽しさを伝えることで、指導実践力を育んでいます。陸上教室を始めて半年が過ぎましたが、参加している小学生は、運動と勉強に集中して取り組んでいるようです。

【体力アップ教室】

小学校低学年を対象に、毎月第2、4土曜日、「動ける体づくり」を目的に、特定の種目に特化しないコーディネーション運動を中心として運動指導を行っています。教員の指導の下、学生が指導案を作成し、子供たちの運動感覚を伸ばすためにどのような運動指導が必要なのか考えています。学生たちは、子どもたちの自由な発想と行動に戸惑いながらも、指導の難しさを痛感すると同時に指導の楽しさも味わっています。



【水泳教室】

夏休み・冬休み・春休みといった長期休暇中に3日間の短期集中型教室として開催されています。幼稚園児・小学生を対象に、水遊び・水慣れから自由形・背泳ぎ・平泳ぎまでの段階指導を展開し、水中での活動を楽しんでもらっています。8月の第9回水泳教室には、約50名の幼稚園児・小学生が参加し、学生達は「どうすればより多くの子どもたちに来てもらえるか?」や「どうすれば子どもたちに水泳を楽しんでもらえるか?」を考えながら、自らのアイデアを形にすることを学んでいます。



参加学生の感想

健康スポーツ学科4年 吉井 慶介

運動教室を開催するにあたって、企画・運営や準備など非常に大変ですが、幅広い年代の方々と信頼関係を築きながら触れ合いを持つことで、視野を広げることができ、物事を様々な角度から考えられるようになりました。個人の指導力や実践力はもちろん、コミュニケーション力、リーダーシップ力など、新潟医療福祉大学の特徴である“チームアプローチ”について学べる非常に貴重な体験だと感じています。また、自分自身の成長とともに、対象者の方々に喜んでいただけるのを実感できるので非常に達成感を感じることができました。

イキイキ運動教室

大学の持つ施設・ノウハウを用いた地域の方々への健康づくりのサポートおよび、将来の運動指導者の養成を目的として、イキイキ運動教室を開催しています。40歳以上の方を対象に、1回90分の教室を全10回(毎週火曜日)開催し、初回および最終回には体力テストを実施して、参加者の体力レベルに合わせた運動指導を実施しています。

【陸上運動部門】

ウォーキング、自重での筋力トレーニング、ストレッチ、バランスボールやラダーを使ったエクササイズといった陸上運動プログラムを実施しています。ウォーキングプログラムでは、参加者一人ひとりに目標心拍数を設定し、オーダーメイドの健康づくりを行っています。参加者からは、「学生と一緒に運動して、若い力をもらった」「歩くのが軽快になった」といった言葉をいただいています。



【水中運動部門】

水中ウォーキング、水中筋力トレーニング、水中ストレッチ、アクアビクス、水中リラクゼーションといった水中運動プログラムを実施しています。水中では、浮力や抵抗の影響で、運動中の転倒リスクが軽減することから、80歳台の方にも安心して運動していただいています。参加者からは、「水の中に入ると膝の痛みが軽くなって、楽になる」「水の中で運動しないと体が重くなる」といった言葉をいただいています。



参加学生の感想

健康スポーツ学科3年 坪野 徹也

初めは慣れないことがありましたが、教室を重ねるたびに私たちにも余裕が生まれ、参加者とも冗談を交えた会話ができるようになり、お互いが笑顔になりました。その中で、参加者の方に楽しんでもらうためには、運動教室を提供する自分たちも楽しまなければならない、「笑顔」が活気ある運動教室を作り出す源だ、ということに気づくことができました。参加者のみなさんは、具体的な目標があるためか運動に意欲的に取り組んでくださり、教室の中で見る表情はいつも明るかったです。今後は、「次回もまた来たい」と思っていただけの工夫やプログラムづくりを目指して頑張ります。

健康スポーツ
学科
入学定員増

H25年4月
100名→160名

全国でも数少ない保健・医療・福祉・スポーツの総合大学として、健康スポーツ学科では、“競技スポーツ”の強化に加え、“健康づくり”を含めた“教養体育”を重視してきました。平成23年に制定された「スポーツ基本法」により、スポーツを取り巻く環境は大きく変化し、教育機関と地域に根ざした総合型地域スポーツクラブなどが連携して、国民の生きがいや健康、一貫指導によるトップレベルの競技スポーツを支えていくことが重要となっています。その際、スポーツを崇高なレベルで指導できる“スポーツ教育者”の養成が急務だともいわれています。多くのスポーツ専門家が必要とされる日本社会において、平成25年4月の入学定員増(100名→160名)により、本学科の教育環境とノウハウを活用して、更に多くの優秀な人材を輩出し、地域社会の“健康づくり”や“スポーツ振興”にますます貢献していきたいと考えています。

咀嚼・嚥下障害を有する 血液透析患者の栄養療法に関する研究

修士課程
健康科学専攻 健康栄養学分野
1年 山川 純子

私は健康栄養学分野の伊藤研究室に在籍し、日中は信楽園病院で管理栄養士として、腎疾患全般と給食管理を担当しています。

私の研究テーマは「咀嚼・嚥下障害を有する血液透析患者の栄養療法に関する研究」です。血液透析患者が増加する中、高齢でかつ、咀嚼・嚥下障害を有する患者も増えています。透析食には水分・塩分・カリウム・リンの制限があり、エネルギー量を十分に確保することが必要になります。しかし、嚥下食は水分含量が多く、一方でエネルギー量が低いといった特徴があります。エネルギー量を充足させようとすると水分・カリウム・リンの値が増加してしまい、患者の身体に負担をかけてしまいます。そのため現場では、充足できないエネルギー量を透析中の輸液や特殊食品で補っています。患者のQOL向上の為に、輸液や特殊食品に頼ることなく、おいしい食事から必要量を充足できるように自分で研究をしてみたいと思い、大学院に入学しました。咀嚼・嚥下障害を有する血液透析患者における先行研究は少なく、食事の分析・検討だけでなく、対象となる患者の特性の把握も行っていく予定です。

研究の内容は大きくわけて3種類あります。

①当院で提供している嚥下食(ソフト食、ミキサー食)のカリウ

ム・リン・亜鉛の値を測定し、食品成分表の計算値と実測値でどのくらい差があるか検討する

②嚥下食のテクスチャーの測定

③嚥下食を摂取している血液透析患者の栄養状態の把握、栄養必要量の設定

さまざまな分野に渡る研究のため、①の食品分析については伊藤先生、山崎先生、②のテクスチャーの測定は岩森先生、③の安静時代謝量の測定は越中先生、透析患者の栄養状態の把握に関しては渡邊先生とそれぞれの分野で活躍している先生方に指導を頂きながら研究を進めています。

現場では出来ないさまざまな研究が大学院では可能です。栄養素の測定や、テクスチャーの測定、安静時代謝量の測定の機材が使用でき、研究もより中身の濃いものになりそうです。



運動イメージ能力と鏡像手凝視による 皮質脊髄路細胞の興奮性との関連の解明

修士課程
保健学専攻 作業療法学分野
2年 岩波 潤

作業療法学分野の大山ゼミには、博士後期課程3名、修士課程3名の大学院生が所属しています。このゼミでは、電気生理学的手法を用いて中枢および末梢レベルでの運動制御について研究をしており、その中で私は、個人の持つイメージ能力と皮質脊髄路細胞の興奮性の関連について研究を行っています。

運動イメージを用いたトレーニングは、古くはスポーツ分野で研究され、中枢神経系においてはイメージトレーニングには実際の練習と同様の学習効果があることが知られています。運動イメージとは「実際の感覚入力や運動出力を伴わずに運動を想起することであり、脳内ワーキングメモリで再生される過程」と定義され、そのイメージがより鮮明に想起できると運動イメージ能力が高いとされています。近年の脳機能イメージング技術の発展に伴い、運動イメージ中の脳活動が解明され、運動イメージ時も随意運動に関連する脳部位が賦活化されることが明らかになり、最近ではリハビリテーション分野でも運動イメージを利用した介入方法として、「Mirror Therapy」や「運動観察によるイメージトレーニング」が活用されつつあります。

そんな中、最近の研究で「運動イメージ中の皮質脊髄路の興奮性は個々の運動イメージ能力と関連している」と報告されま

した。私は特にMirror Therapyと運動イメージ能力との関連に興味を持ち、それらの関係性について研究を行っています。それらの関係を明らかにすることで、Mirror Therapyの適応基準を定め、臨床現場でより効果的なリハビリテーション手段の選択ができるような環境を作ることが私の研究目標です。

私は、新潟医療福祉大学の作業療法学科を卒業し、5年間病院で臨床を行い、その後大学院へ進学しました。それは臨床現場で感じていた疑問を解明したいという思いがあったからです。新たな環境に慣れることは少し大変でしたが、今は非常に有意義な日々を過ごしています。もし皆さんが臨床現場で疑問に感じることがあり、「研究をしたい!」という気持ちがありましたら、ぜひ大学院への進学を検討してみてください。



国際交流のWA!

これからの保健・医療・福祉・スポーツを「創造」し、豊かな感性と幅広い視野を身に付けられるよう、開学以来、積極的に国際交流を進めてきました。その国際交流の一部をご紹介します。

| プルリリンガル・ランチ |

【目的】 プルリリンガル(複言語)とは、「一人の人が複数の言語を、(たとえ不完全でも)使う能力を持つ」という意味です。母語に加えて他の言語も使え、違った世界が見えてきます。

本学では、世界各地から学びに来る留学生・研修生が徐々に増えてきています。その人たちとごく普通に関わり、かつ、互いに異文化を感じながら学び合いたいものです。そのときに使う言語は、日本語であったり、相手の言語であったり、保健・医療・福祉・スポーツのいわば「共通語」でもある英語であったり、時と場合によって使い分ける能力も必要です。本学がそのようなキャンパスになることを理想として、スタートしました。

【活動内容】 月1回程度、中庭(天候によってはカフェテリア)にお弁当持参で集まり、英語や日本語で雑談しています。今年から、台湾からの留学生も参加しています。

【活動成果】 参加したことがきっかけで、日本人学生と留学生が普段でも交わる機会が増えているようです。また、英語に興味を持ち、英語クラブに足を運ぶ学生もいます。

【今後の展望】 学生ボランティアを募り、学生が自主的に運営できる組織になることを期待しています。また、留学生や海外からの研修生との交流会も企画したいと考えています。



留学生

インタビュー

本学大学院 義肢装具自立支援学分野に、台湾から2人の留学生が学びに来ています!

■なぜ、新潟医療福祉大学に入学したのですか?

頼さん 私は理学療法士の資格を持っています。その知識を活かして、台湾の義肢パーツメーカーで研究開発の仕事をしていました。もっと専門的な勉強をしたいと思いましたが、台湾には義肢装具に関する学校はなく、義肢装具士の国家資格制度もありません。私の出身大学で本学義肢装具自立支援学科の阿部薫先生の特別講義があり、これがきっかけで知識・技術の必要性を強く感じ、大学院進学を決意しました。

張さん 私は台湾の国立病院で義肢装具部門の技師長として働いています。台湾には義肢装具士の資格制度がありませんので、私は理学療法士ですが義肢装具を専門としています。台湾で行われた学会で、阿部先生の講演を聞く機会があり、最新の設備や知識豊富な先生方のもとで学ぶことができる大学院に進学を決めました。

■入学してみてもの学校生活はどうですか?

張さん 世界最高レベルの実習環境をはじめ、図書館、学生食堂まで、伸び伸びとしたキャンパスで学べることに満足しています。また、台湾の大学内では挨拶習慣がありませんが、本学では学生の皆さんが自然と挨拶を交わしているので、学内が明るい雰囲気ですね。

頼さん 先生方や学生さんがとても親切です。いつも気軽に話しかけてくれて、困ったことを解決してくれます。学部1年生~4年生の実習にも参加していますが、実習後は先生方が率先して片づけや掃除を行ってくれるのには少々驚きました。

■ちなみに、学生のみなさんとの会話は?

張さん 日本語については、日常会話がようやく少し話せるようになってきています。普段は日本語、英語、中国語を織り交ぜながら、ジェスチャーや漢字を使って、コミュニケーションをとっています。最近は流行単語を教えてもらっています。

頼さん プルリリンガル・ランチにも参加しています。学内で異文化を感じながら、楽しく交流できるチャンスがあるという環境は素晴らしいですね。

■将来の夢を教えてください。

張さん 義肢装具に関する世界最先端の技術と知識を修得し、台湾に帰国した後は、国立病院内に義肢装具自立支援センターを立ち上げる計画が進んでいます。現在、台湾では義肢装具士の国家資格制度創設のため、養成大学の設立に向けた動きが出てきました。専門大学ができれば、その教員として専門職を育成していきたいですね。

頼さん 私も、本学で行った義肢装具に関する勉強をもとに、帰国後はメーカーに戻り、数年経験を積んでから、教育方面にも携わっていきたくと思っています。さらに留学の経験を活かし、日本と台湾の架け橋となって交流を深め、義肢装具分野の発展に貢献していきたいと思っています。



左 頼さん、右 張さん



01 理学療法学科
「くだらないことでも全力に!」がモットー



02 作業療法学科
ゼミ対抗ドッジボール大会



03 言語聴覚学科
「言語聴覚士の歴史」のポスター作成



04 義肢装具自立支援学科
楽しむときは、全力で楽しむ!

基礎ゼミ

学生・教員交流会

基礎ゼミは1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7~8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。またディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。



05 臨床技術学科
大成功に終わったバーベキュー



06 健康栄養学科
持ち寄りのお弁当をバイキング形式で食べました!



07 健康スポーツ学科
盛り上がったバレーボール大会



08 看護学科
「ターミナル・ケア」について、意見交換



09 社会福祉学科
楽しく理解!「福祉かるた」



10 医療情報管理学科
製氷菓子の費用対効果についての発表

01 交流会を通して感じたこと

理学療法学科 1年 眞野目 務



私たち菅原ゼミでは「くだらないことでも全力に!」をモットーに、ディベート、ソフトボール、バーベキューなどいろいろなゼミ活動を行ってきました。ゼミでジェンガをした時は、理学療法士の卵として運動学の知識を応用し、「どうすればジェンガが倒れにくいかなど、身近な所に潜む疑問を解決してきました。

また、7月18日に、理学療法学科1年の全ゼミの先生と学生が集まりバーベキューが行われました。材料の買い出し準備から後片付けまで、全て学生が行い、バーベキューを楽し

みました。火がつかないというアクシデントもありましたが3時間ほどの交流会はあっという間に時間が過ぎてしまい、終始楽しい交流会となりました。その後は、互いに誘い合って、近くの海に行き、自然と交流の輪が広がっていることを感じました。

今回の交流会を通して、各ゼミの仲がますます深まったことはもちろん、学科全体の学生・先生との仲も深まり素晴らしい交流会となりました。これから4年間この思い出を胸に学生生活を送っていききたいと思います。

作業療法学科 1年 相澤 葉奈

02 仲間と協力する大切さ



私たち大山・岩波ゼミでは、メンバー5人毎回楽しく活動しています。私たちのゼミでは、活動の一環として、新潟市内の有名スポットについてのパンフレット作りを行いました。私は県外出身なので、ゼミのメンバーで実際に水族館や朱鷺メッセ等に行くことで、新潟の良さを知ることができました。また、パンフレットを読んでいただく皆さんに、楽しんでいただけるように工夫するのは大変でしたが、先生方のアドバイスを基にみんなで協力し話し合い、良いパンフレットができました。

5月16日には、教員・学生交流会としてゼミ対抗のドッジボール大会を行いました。優勝に向けて各ゼミで教員、学生関係なくチーム一丸となって白熱した戦いになり、とても盛り上がりました。この交流会を通してゼミ内や学科全体の親睦をさらに深めることができたと思います。

これから4年間、先生や同級生の仲間たちと親睦を深めつつ、互いに協力し支え合いながら学科全員で作業療法士という夢に向かって頑張っていきたいと思います。

03 基礎ゼミでの活動を通して

言語聴覚学科 1年 山田 智洋



4月からの基礎ゼミでは、「言語聴覚士の歴史」について資料を集め、ポスター作成を行うなど、さまざまな活動を行いました。みんなで意見を出し合ったり、指摘し合ったりして、お互いに協力し、とてもいい雰囲気での活動できたと思います。

また、ゼミ活動の一環で、先輩方と触れ合う機会も多く設けられました。先輩と話をしている中で、普段の授業での勉強方法やテスト対策をどうしたら良いか、部活やサークルの両立方法、アルバイトの話までたくさんのアドバイスをいただ

き、とても参考になりました。

6月に行われたゼミ対抗のソフトバレーボール大会では、楽しい雰囲気の中、真剣な眼差しで1人1人プレーしていました。私のゼミは途中で負けてしまいましたが、先生方と学生との距離が縮まった良い機会でした。

これからは、ゼミのメンバーはもちろん、学科のみんな1人1人と意見を交わしたりできるようにコミュニケーション能力を向上させ、より良く楽しい学生生活を送っていききたいと思います。

04 和気あいあいのバスケットボール大会

義肢装具自立支援学科 1年 田所 大



7月4日、義肢装具自立支援学科では、基礎ゼミの時間に学生間交流の一環としてバスケットボール大会を開催しました。試合はトーナメント形式を用いて、ゼミごとにチーム一丸となって戦いました。当日、体育館内は梅雨の抜けきらない真夏日特有の蒸し暑さに包まれ、立っただけで汗が頬を伝います。しかし、私たちは持ち前の元気さでうだる暑さにも負けず、誰もが真剣かつ全力でバスケットボールを楽しみました。

元気といえば、先生方もです。人数の足りないチームに東

江先生、月城先生が飛び入り参加したのですが、どちらも十代男子顔負けの機敏な動きで対戦相手を翻弄し、会場を沸かせていました。試合は順調に進み、見事優勝を掴みとったのは江原ゼミの皆さんでした。おめでとうございます。

さて、今回の交流会ですが、和気あいあいとした学科の雰囲気強く感じられました。楽しむときは全力で楽しむ、そんな学科の良さが伝わる交流会だったと思います。

最後に、応援のために集まれた先生方・先輩方に感謝いたします。

05 ゼミの活動と今後の目標



臨床技術学科では、学科内交流のために「スポーツ大会」と「バーベキュー」を行いました。

私は、ゼミ長として、この2つの行事の企画・運営をする担当になりました。私は、今まで自分がリーダーとなって企画・運営をする経験がなかった中で、大変だと感じることもありましたが、他のゼミのゼミ長や先輩方にも協力してもらったお陰で、無事成功することができました。

先輩の“人をまとめる力”は、私とは比べものにならない程

の違いがあると実感し、今後に活かすことのできる貴重な体験だったと思います。

また、みんなで協力することにより、以前までは話さなかった人とも話すようになり、親睦が深まって、とても良い行事になったと思います。

より充実した大学生を送るためには、友人と交流を深め楽しむことも大切です。それに加え、私たちの学科では、臨床工学技士・臨床検査技師のダブルライセンス取得を目標としているので、「勉強するときは勉強!」「遊ぶときは遊ぶ!」といった、メリハリのある学生生活をしていきたいです。

06 美味しかったお弁当の日



私たち健康栄養学科は、昼休みと基礎ゼミの時間を使って「お弁当の日」を実施しました。「お弁当の日」とは、主食、主菜、副菜の3つを分担して1人が1品の料理を作り、みんなで持ち寄って食べることで、食に

関する交流を深める、学科の取り組みです。

当日は学生・基礎ゼミ教員だけでなく、健康栄養学科の他の先生方も参加してくださいました。最初に、テーブルにみんなが作った料理を並べて全員の料理を見学し、その後バイキング形式で好きな料理をいただきました。どれもみんな

美味しそうで、今まで食べたことのない料理などがあり、見ているだけで、とてもわくわくしました。また、同じ料理でも作った人それぞれで見た目も違うし、味つけもさまざまで、いろいろな味を楽しむことができました。みんなで食事をするだけで自然と笑顔になれるし、会話ははずみ、とても楽しいひとときでした。

私はこの「お弁当の日」を通して改めて、『食の持つ力』の偉大さを実感しました。機会を見つけて、ぜひまたみんなで「お弁当の日」を行いたいと思います。

07 基礎ゼミの枠を越えて得たもの



6月20日に、健康スポーツ学科で基礎ゼミの活動・交流会として、「ソフトバレーボール大会」が行われ、一番楽しい思い出ができました。

私たちのチームは、今回のソフトバレーボール大会に向けて、練習を行いました。あまりうまくボールが運ばず、目標とする優勝には正直遠いと思ってました。

しかし、本番では、声を出し合いボールをつないだ結果、優勝することができました。練習の甲斐もあり、チームでの連携を感じ、すごく嬉しかったです。

大学は、中学・高校と違い、学年全体での活動は少ないため、入学してから交流会までは、多くの友達と仲良くする機会は少ないと思っていました。しかし、今回のような活動・交流会を通して、基礎ゼミのメンバーとの仲が深まったことはもちろん、他のメンバーとも話をしたり、交流できる場面も多くあり、今回の交流会を通して仲間の輪が広がりました。これからの学生生活も、出会いを大切にしていきたいです。

08 基礎ゼミを通して学べたこと

看護学科 1年 菅原 小熙



私たちの基礎ゼミのグループは、「ターミナル・ケア」をテーマに、それぞれが興味を持った観点からターミナル・ケアについて調べました。

ゼミでは、一人一人が様々な観点から、調べてきたことを発表し合います。私は、最低限のことは知っているつもりでしたが、お互いに発表し合い、意見交換することで、自分の考えや知識が浅かったことに気が付きました。

また、幅の広い、そして奥の深い知識をたくさん得ること、深めることができ、もっと調べてみたかったという思いも残

り、ますます興味が深まりました。

最終的に、自分たちが作成した資料をまとめ上げ、一冊の冊子を完成させることができ、とても達成感がありました。

基礎ゼミの活動を通して、大学に入学してから初めて、仲間と協力し、自分たちの力でひとつのものを創り上げることができました。この経験は、これからチーム医療を行っていく上で、自分にとって大きな武器になると思います。

これからもお互い刺激になるよう、活発な交流を深め、楽しい学生生活を送っていききたいです。

09 福祉かるたを通して

社会福祉学科 1年 大沼 彩佳



私たちの基礎ゼミでは、福祉の様々な話題で川柳を作り、絵や解説をつける「福祉かるた」を作りました。始めは福祉のことはまだ分からないことがたくさんあるのに、それを川柳にすることは不安でしたが、分

からないところは、インターネットなどで調べたり、先生や友達が助けてくれたりする中で、楽しく理解を深めることができました。

私は、男性の育児参加についての川柳を作りました。男性が育児に参加すれば、女性の負担は減り、もっと子どもを産

みたいと思う人が増え、少子化対策につながるということをよく理解することができました。他にも年金問題、児童虐待などさまざまな川柳が完成し、福祉の分野は、本当に幅が広いことが分かり、今まで以上に興味を持つようになり、将来の夢を叶えるために、もっと関心を持ち、知識を身につけていきたいと思いました。

福祉かるたはオープンキャンパスでも体験イベントのひとつとして行っています。福祉かるたを通して、多くの方々に福祉に興味を持ってもらえたら嬉しいです。

10 これからの、きっかけ

医療情報管理学科 1年 吉沢 拓真



私たちの基礎ゼミ活動では、これから学んでいく経営分野の視点から、製氷菓子の費用対効果について調べて、まとめました。

調べ方は、ゼミの中で「どのアイスが好きか」アンケートを行い、次に満足度や価格の調査を行いました。そうやって調べていくと、満足度が高く、費用が最も低い、費用対効果のよいと考えられる製品は、ガ〇ガ〇君という結果になりました。専門的な勉強に入る前に、楽しみながら経営学の理解を深められたことで、より一層これからの勉強に興味を持つことができました。

学生・教員交流会では「ドッジボール」を行い、二つのグループに分かれてのリーグ戦の後、上位2チームずつの合計4チームでトーナメントを行って、優勝チームを決めました。大学に入ってはじめて学科のみんなと交流することもあってか、最初は交流の輪も偏っていましたが、最後には、みんな仲良く、男女関係なく交流を深め、とても和やかな雰囲気の中で交流会をすることができました。また運営を行ったリーダーたちだけでなく、みんなで積極的に協力してスムーズに交流会が進行できたと思います。

国内外で活躍し、人々に夢や感動を
与えられるトップアスリートを育成。

強化クラブ

平成25年4月
新強化指定クラブ誕生!

■硬式野球部
■女子バレーボール部
■ダンス部

男子サッカー部

アルビレックス新潟専用グラウンドに隣接するアルビレレッジ(JFA公認人工芝)を使用して練習を行い、アルビレックス新潟をはじめ、地域スポーツと連携した新しいかたちのクラブ強化、選手・指導者育成に取り組んでいます。強化試合などでは、J1アルビレックス新潟の胸を借り、プロ選手のプレーを肌で感じることができます。サッカーのみならず多くのことを学べる環境に恵まれています。



現在、北信越大学サッカーリーグ1部、新潟県サッカーリーグ1部に所属し、今後は、総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場、全日本大学サッカー選手権大会出場、北信越フットボールリーグ昇格を目指します。今年度も、応援よろしくをお願いいたします!

女子サッカー部

平成24年4月誕生!

今年度4月より、1期生部員16名で活動を開始しました。北信越大学女子サッカー連盟に所属し、全日本大学女子サッカー選手権大会出場を目指します! また、北信越地域の女子サッカー発展に貢献するため、「Liga student北信越」にも参戦します。



女子部員は、アルビレックス新潟レディースに所属し、日本女子サッカーリーグ「なでしこリーグ」でプレーしています。将来の自分自身を豊かなものにするため、大学では学業に専念し、週末、全国各地で行われる試合では、応援して下さる多くの方々との試合を通じて、「喜び」と「感動」を共有しています。

今シーズンも温かいご声援をよろしくお願いいたします!

男子バスケットボール部

今年度、インターハイ(高校総体)ベスト8に入賞した能代工業高校、前橋育英高校、新潟商業高校をはじめ全国から10名の新1年生が入学しました。



上級生、下級生また有望な新1年生と厳しい練習に取り組み切磋琢磨し、インカレ出場上位進出を狙っています。

また、新潟県小学生選抜チームの練習、講習会等にも積極的に参加、実施し地域社会への貢献も活発に行っています。「よき人づくり」を理念に、バスケットボールを通じて自ら挑戦する意欲を有し、明るく素直で、他人に誠実に対応できる人間性豊かな人づくりより、実力・人間力とも北信越を代表するチームを目指します。

女子バスケットボール部

25名の部員が所属し、高校で全国大会上位入賞の指導実績のある大滝和雄監督のもと、2012年は7年連続インカレ出場と上位入賞を狙っています。



部員には高校時代、全国レベルで活躍した選手や一般受験で入学した人などさまざま、「明るく!楽しく!元気に!」をモットーに、部員全員がともに切磋琢磨し、毎日活気のある活動を行っています。WJBL(バスケットボール女子日本リーグ機構)に参戦している新潟アルビレックスBBラビッツとの合同練習も実施し、トップレベルの選手のプレーを間近で感じ、頑張っています。部活動での強化は勿論ですが、豊かな人間性・社会性も身につけ、いち人間としての成長を目指しています。

水泳部

大学には2005年に完成した25m×6コース(コース幅2.5m)の屋内プールがあり、総合大学であるメリットを生かし、日本水泳連盟公認のスポーツドクター(整形外科医)やトレーナー(理学療法士)、スポーツ栄養学を専門とする管理栄養士など、各分野の教員やスタッフによるサポートも充実しています。そのような環境の中、選手全員が常に高い意識を持って毎日厳しいトレーニングに励んでいます。



日頃、水泳部では、部活動を社会の縮図と捉え、部員には「チーム目標達成のため、自分の役割を考えて行動する」「やるからにはとことん本気で取り組む」という2つのことを常に追求し、これからも日々精進していきたいと思えます。

日々の活動報告を以下で紹介していますので是非、ご覧ください。
「新潟医療福祉大学水泳部通信」<http://nuhw.blog-niigata.net/swim/>

陸上競技部

現在約80名の部員で構成され、5名の専門指導者が、短距離・中長距離・跳躍・投擲ブロックをそれぞれ担当し、きめ細やかな個々への指導を実現しています。創部7年目という新しい部ですが、全国レベルで活躍する選手を輩出できるようになりました。競技部としては、北信越インカレで男女総合完全優勝を達成し、男子では2連覇、女子は初優勝を遂げました。今後は、さらに多くの選手が、日本インカレや全日本大学駅伝に出場できるように育成していきます。また、自己管理できる強い精神力と科学的根拠に基づくトレーニングを考える能力を身につけ、選手個々が自己記録を更新できるようなチーム作りを目指します。平成25年6月には新たな陸上競技グラウンドを建設し、さらにハイレベルな練習環境を整える予定です。



©各クラブの活動計画につきましては本学ホームページ内「強化クラブ特集」をご覧ください。
<http://www.nuhw.ac.jp/sport/index.html>

本学最大のイベント! 「オープンキャンパス2012」が行われました!

NEWS 01

7月14日(土)、8月4日(土)5日(日)、9月1日(土)、「オープンキャンパス2012」が開催されました。山本 正治学長挨拶からはじまった「オープニングプログラム」では、恒例の在学生へのインタビューが行われ、参加者からは在学生の生の声が聞けるとあって大盛況でした。

また、全10学科による「学科説明会」をはじめ、フリープログラムでは、本学の特色や入試について説明する「大学概要・入試概要説明会」、「教員・在学生による個別相談」や「施設見学ツアー」そして、各学科の学びをより理解していただくための様々な「体験プログラム」が実施されました。

特に、オープンキャンパスの醍醐味でもある70種類以上にも及び体験プログラムでは、参加者が希望する学科のプログラムはもちろん、

興味のある複数学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体験していただくことができました。

また、多くの学生スタッフとの交流を通じて、授業の様子やサークル活動についてなど、新潟医療福祉大学でのキャンパスライフをより身近に知っていただくことができました。

本年度のオープンキャンパスは、これですべて終了となりますが、10月以降も様々なイベントを実施いたしますので、機会があれば是非一度、新潟医療福祉大学まで足をお運びください。



医療福祉施設 求人説明会 開催

NEWS 02

8月24日(金)、本学キャンパスにて「医療福祉施設 求人説明会」が開催されました。

この説明会は、本学就職センターが就職支援の一環として毎年実施しているもので、保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職の採用を検討している医療福祉施設92施設から200名以上の採用担当者様にお越しいただきました。

終了後、採用担当者様からは「前向きな学生さんが多く、皆さん採用したいですね」「学科ごとの特徴や学生の雰囲気が良くわかりました」(本学アンケートより)と、好評をいただくことができました。

また、参加した在学生からは「就職先を選ぶ時の基準を決める上で

良い機会となった」「たくさんの施設から話をきけてよかった」(本学アンケートより)など多数の意見がありました。多くの施設・採用担当者様にお越しいただき、あらためて保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職へのニーズの高さを実感すると共に、有意義な機会となったようです。

本学では今後もこうした就職支援を積極的に行い、在学生の夢の実現をサポートして参ります。



第12回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

NEWS 03

今年度の学術集会は、大会テーマを「保健・医療・福祉・スポーツにおけるITの活用可能性」とし、研究発表や専門セッションなどのプログラムを用意しています。

参加は無料です。多数の方々のご来場をお待ちしています。

第12回 新潟医療福祉学会学術集会

日 時：平成24年10月20日(土)
会 場：新潟医療福祉大学 大講堂
大会長：新潟医療福祉大学 医療経営管理学科部長 福島 正巳

プログラム
(予定)

9:30 ~ 開場 (受付開始)
10:00 ~ 会頭挨拶
10:15 ~ 一般演題 (口頭セッション)
11:30 ~ 新潟医療福祉学会総会
12:00 ~ ポスターセッション
12:50 ~ 特別講演
13:50 ~ 鼎談 (病院における医療情報管理の動向について-新潟県の立ち位置を考える-)
16:00 ~ 会頭賞・奨励賞表彰
16:15 ~ 閉会式

平成25年度 入学選考試験のご案内

NEWS 04

本学では、個性を活かすことのできる様々な試験区分を設けています。それぞれの特色を理解し、自分にあった試験区分を選択し、受験に臨んでください。

保健・医療・福祉・スポーツのスペシャリストを目指す、意欲溢れる皆さんからの出願をお待ちしています。

■募集学科・募集人員(1年次)

理学療法学科 80名
作業療法学科 40名
言語聴覚学科 40名
義肢装具自立支援学科 40名
臨床技術学科 80名
健康栄養学科 40名
健康スポーツ学科 160名※
看護学科 80名
社会福祉学科 120名
医療情報管理学科 80名
※平成25年4月入学定員増(100名→160名)

■入学試験日程

*出願前にエントリーが必要となります。詳しくは本学HPまたは学生募集要項をご参照ください。

入試区分	学 科	出願期間	試験日
AO入試	全学科	受付終了	第1次 9/ 8(土) 第2次 10/13(土)
推薦入試	公募推薦(前期)	全学科	10/29(月)~11/6(火) 11/17(土)
	公募推薦(後期)	義肢装具自立支援学科 医療情報管理学科	12/3(月)~12/11(火) 12/15(土)
	指定校推薦	全学科	10/29(月)~11/6(火) 11/17(土)
	スポーツ推薦	健康スポーツ学科	前期 10/29(月)~11/ 6(火) 後期 12/ 3(月)~12/11(火) 前期 11/17(土) 後期 12/15(土)
特別推薦	理学療法学科	10/29(月)~11/6(火) 11/17(土)	
社会人等特別入試	全学科	10/29(月)~11/6(火) 11/17(土)	
センター利用入試(前期)	全学科	1/9(水)~1/28(月)	本学独自の個別学力 検査等は課さない
センター利用入試(後期)	理学療法学科 臨床技術学科 健康スポーツ学科 看護学科	2/12(火)~2/22(金)	センター試験実施期日 1/19(土) 1/20(日)
一般入試(前期)	全学科	1/9(水)~1/23(水) 2/5(火)	
一般入試(後期)	全学科	2/12(火)~2/22(金) 3/6(水)	
3年次編入試験	①健康スポーツ学科※ ②看護学科 ③医療情報管理学科※	①3/9/26(水)~10/2(火) ②受付終了	①3/10/13(土) ② 9/ 8(土)

学友会

第12回 伍桃祭(大学祭)案内

今年の
テーマ

「message」

～伝えたい、今の想～

今年の伍桃祭では今まで築きあげられてきたものをさらにもう一段階ステップアップし、より良い伍桃祭にしたいと企画しています。

12回目となる今年のテーマは「message～伝えたい、今の想～」にしました。私たちは日々、友人・家族・諸先生方・地域の方々などとても多くの人に支えられて生活しています。嬉しい時も、楽しい時も、辛い時もお互いに支え合える人がいるから、私たちはこれからも自分の夢に向かって頑張るのではないのでしょうか。一緒にいるのが当たり前で、普段言えない様々な想いをこの伍桃祭をきっかけに伝え、かけがえのない思い出にしたいという願いがこのテーマには込められています。

さらに今年の伍桃祭では、特別ゲストとして「FLOW」のライブ、地元小中学校吹奏楽の演奏、子供たちが遊べるアトラクションなど地域の方々に参加できるイベントが盛り沢山です。

その他にもさまざまなイベントがあり多くの出店が立ち並び、同窓会や生涯学習センター運営委員主催の講演会なども開催されます。昨年に引き続き「eco」にも率先して取り組んでいきます。伍桃祭をより地域密着型のお祭りにし、地域交流のきっかけになるようにしていきたいと思えます。

10月7・8日、新潟医療福祉大学でたくさんの方のご来場をお待ちしております。

第12回伍桃祭実行委員長 阿部 拓也

イベント案内

- 「FLOW」によるライブ
- 池谷幸雄さんによる講演
- 部活・サークルによる発表
- 模擬店
- Mr.&Ms.発表
- 学科対抗パフォーマンス大会
- バルーンアート
- 子供向けアトラクション

このほかにも交流イベントが満載です。ぜひお越しください。

10/7日
8月祝

大学祭ホームページ案内

<https://sites.google.com/a/nuhw.ac.jp/gotousai2012/>



大学院

各種イベントのご案内

大学院では、伍桃祭と同日に開催する「無料公開セミナー」や、「授業見学ウィーク」などのイベントを企画しております。本学大学院に直接触れることができる機会ですので、是非ご参加ください。多くの方からのご参加をお待ちしております。

※いずれのイベントも
詳細情報については大学院ホームページ
(<http://nuhw.ac.jp/grad/>)で
ご案内しています。
また、ご不明点は大学院入試事務室まで
お気軽にお問い合わせください。
問い合わせ先: TEL025-257-4455(代)

★無料公開セミナー「専門職のための研究スキル講座」

～学会発表の組み立てと論文作成のコツ～

10/7日
10:00～

研究とは何らかの問題点を解決するために行います。そして、開かれた知的財産とするために研究成果を公表することが求められます。本セミナーでは、研究成果の発表から論文作成までのコツを紹介します。
申込受付/10月1日(月)まで(定員あり)

★大学院授業見学ウィーク

11/5日～11/10日

左記期間内に開講されている大学院の授業を見学できます。大学院の授業の雰囲気を実際に見てみたい...という方におススメです。
申込受付/10月29日(月)まで

★文献検索セミナー(基礎編)・大学院説明会

12/8日
10:00～(予定)

専門職のための文献検索方法について、分かりやすくレクチャーします。終了後は大学院説明会を開催。希望される方は担当教員との個別相談もできます。
申込受付/12月5日(水)まで(文献検索セミナーのみ定員あり)

新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務室】TEL025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様に本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

